

みなさんが学校から貸し出されるタブレットPC端末には様々な機能があり、上手に使うことで授業での学びをより深めることができます。きちんとルールを守って、みんなが気持ちよく学習できるようにしましょう。

1 タブレットPCを使う目的とは

学校で貸し出すタブレットPCは、学習活動のために使うことが目的です。ゲームなど、学習活動に関わること以外に使わないようにしましょう。

2 使用場所

- ・学校と家庭、先生の指示がある場所以外では使用しません。
- ・登下校中は、タブレットPCをかばんから出しません。
- ・なくしたり、ぬすまれたり、落としてこわしたり、水にぬらしたりしないように十分に気をつけます。
- ・持ったまま走ったり、地面に置いたりしません。
- ・タブレットPCをかばんの下に置いたり、かばんの底に入れたり、タブレットPCの入ったかばんを放り投げたりしません。
- ・水をかけたり、湿気の多いところでは使いません。また、日光が直接当たるところやストーブの近くなどには置きません。
- ・タブレットPCの画面は指で触れる、またはキーボードを使うようにします。鉛筆やペンで触れたり、落書きをしたり、磁石を近づけるなどは絶対にしません。



3 学校・家庭で使うときのルール

①学校で使うとき

A: 授業中

- ・学校でタブレットPCを使うときは、先生の指示に従います。
- ・授業中指示されていないことはしません。
- ・ルールを守り、みんなで気持ちよく使います。



B: 休み時間、放課後

- ・休み時間は、使用しません。放課後は、先生が認めたこと以外に使いません。
- ・下校するときには、教室の充電保管庫に入れます。

②家で使うとき

- ・使用する時間は家の人とよく話し合い、長時間使用せず細かく休けいしながら使います。
- ・就寝する30分前は使いません。
- ・自宅のパソコンとタブレットPCは、絶対に接続しません。
- ・先生や友達とオンライン上でのやり取りはしません。
- ・学校の臨時休業等で、家庭学習で使うときには、学校の授業と同じ意識で、しっかりと勉強をする気持ちで使います。
- ・家に持ち帰った場合、次の日には持ってきます。
- ・持ち帰りの時期は、後日連絡します。



4 個人情報の取り扱いについて(情報モラル)

- ・自分のタブレットPCを他人に貸したり、使わせたりしません。
- ・自分や他人の個人情報(名前や住所、電話番号など)はインターネット上に絶対に上げません。
- ・相手を傷つけたり、いやな思いをさせたりすることを絶対に書き込みません。
- ・学習以外で自分のアカウントを人に教えません。
- ・パスワードは、どんなときでも人に教えません。
- ・ネットに音声や画像、動画を公開しません。



5 タブレットPC附属のカメラでの撮影について

- ・先生が許可した時以外でカメラを使いません。
- ・カメラで誰かを撮影したり、人の家や持ち物などを撮影したりするときは勝手に撮らず、必ず撮影する相手の許可をもらいます。



6 タブレットPCの取り扱いについて

- ・学校のタブレットPCで作ったデータやインターネットから取り込んだデータ(写真や動画など)は、学習活動で先生に許可されたものだけ保存します。
- ・学校で、タブレットPC本体やインターネットが使えなくなって、再起動をしても元にもどらないときは、すぐに先生に知らせます。
- ・家庭でこわれたり、なくしたりしたときは学校に連絡します。
- ・学習に関係ないウェブサイトにはアクセスしません。
- ・インターネットにはフィルターがかけられています。もしもあやしいサイトに入ってしまったときはすぐに画面を閉じ、先生や家の人に知らせます。
- ・タブレットPCで作成したデータ(写真や動画も含む)は、Googleドライブ内に保存します。



これだけは知ってほしい3つのこと

非対面性

会わずに成立する コミュニケーション

実社会は対面のコミュニケーションが基本ですが、ネット社会は非対面のコミュニケーションが基本です。

表情や声色で伝わるニュアンスが欠落するため、電子メール、ブログ、コミュニティサイト、掲示板では自分の思いを相手に正確に伝えるために文章表現を工夫する必要があります。



匿名性

見かけ上だけ、 実は特定されやすい

ネット社会では匿名でメッセージを発信することができます。自ら名乗っている場合も、それが実名とは限りません。しかしプロバイダが調べれば、どこから書き込まれたものかを特定することが可能です。

他人を誹謗中傷(ひぼうちゆうきやう)するような書き込みや、犯罪予告(ひんざいよこけ)など、いつどのパソコンから書き込まれたのかすぐにわかってしまいます。



即時性・広域性

一瞬にして 世界中に情報伝達

ネットの情報は従来のコミュニケーション手段とは異なり、瞬時に相手に届く、海外の相手とも距離を気にせずやりとりができるといった長所があります。

しかし一度ネット上に流出した情報を回収することは困難なので、便利な反面、使い方を誤ると大変危険な事態を招く場合があります。

